

常総市復興ビジョン

平成27年12月

常 総 市



はじめに

当市は、平成27年9月関東・東北豪雨で9月10日に鬼怒川が溢水・決壊したことにより、市域の3分の1にあたる約40km²が浸水し、死者2人・負傷者40人以上、全半壊家屋が約5,000棟のほか、農業や商工業、各種施設などに甚大な被害があり、生活基盤や地域の産業基盤などに深刻な影響が出ています。

かつて経験のない未曾有の災害から、被災者の生活再建、産業・経済の再建、防災のまちづくりなどを進めていくために、市では「常総市復興計画」を平成27年度中に策定します。

復興ビジョンの位置づけ

「常総市復興計画」を策定するにあたり、水害前よりも魅力のある常総市を再生・創造していくため、また、未来の常総市の姿を明確にするために、その指針となる「常総市復興ビジョン」を策定しました。

このビジョンは、常総市の1日も早い復興に向けて、『市民が共有したい、常総市のより良い将来像・目標(ビジョン)』を表したもので、その将来像の実現に向けて行動を起こす上での前提になるものです。

復興ビジョンから復興計画への流れ

復興ビジョンは、復興を遂げた常総市のあるべき姿であり、市民が目指す目標です。

この目標があるからこそ、私たちは水害に負けることなく、将来に向けて歩き出すことができるのです。

しかし、その目標を実現するための具体的な手段を示せなければ、目標は単なる夢で終わってしまいます。

そこで、まず復興ビジョンにより、将来の目指す姿や理念など、復興に向けた目標を早期に決めました。

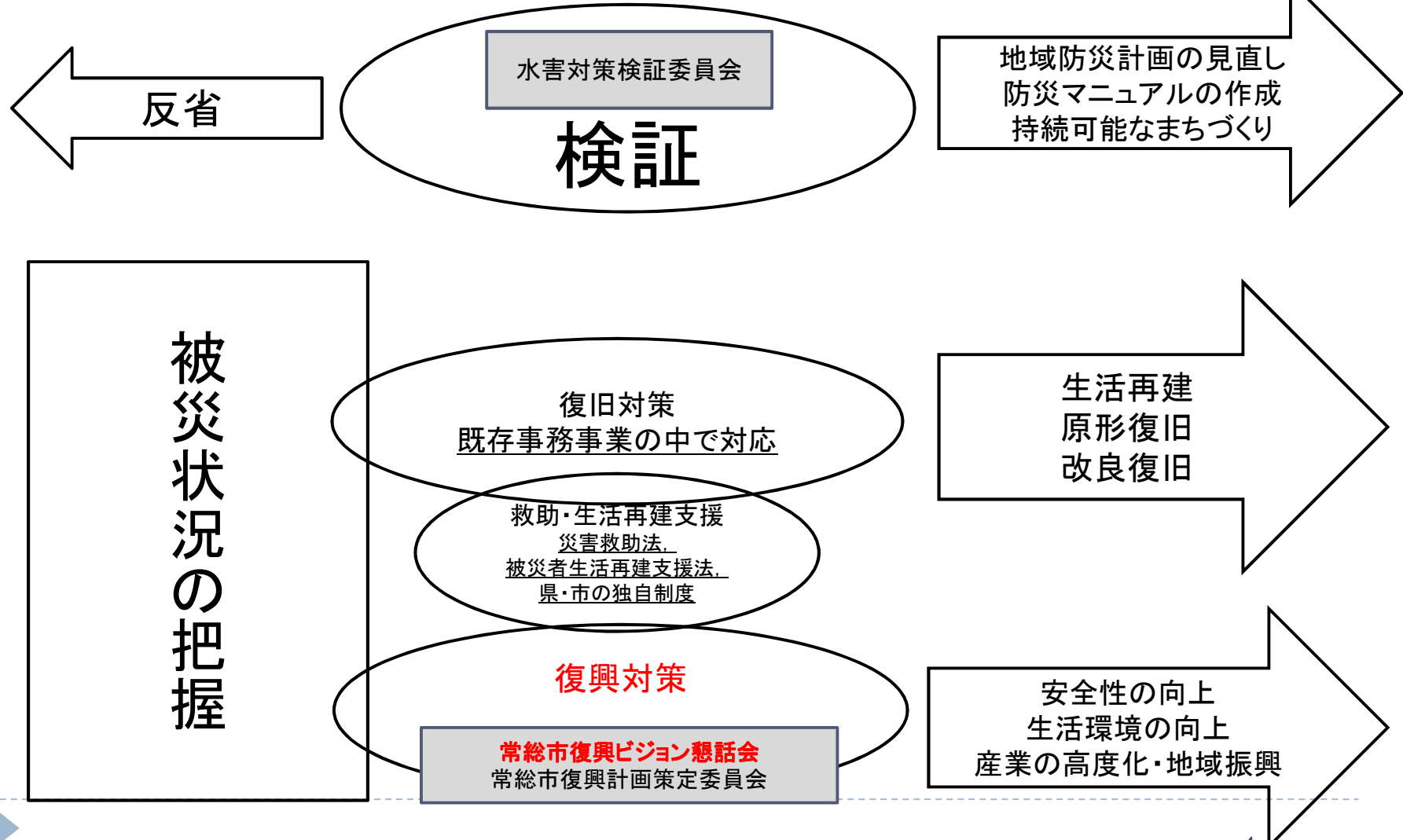
その後、ビジョンをベースに、目標実現のための各種事業などの行動計画部分を検討し、最終的な「復興計画」とします。

復興に向けた取り組み ～各組織の役割～

市では、水害の経験をこれからの常総市のまちづくりに生かしていくため、水害からの復興にかかわる様々な組織の役割を明確にして、取り組みを行ってまいります。

<過去>

<未来>



【検証（水害対策検証委員会）】

平成27年9月関東・東北豪雨による激甚な被害を受けたことから、今後の安全・安心なまちづくりを実現するために第三者による水害対策検証委員会を設置し、水害発生時からの対応について、職員や関係機関等からのヒアリングを通じて、事実を即して、第三者的視点から客観的に課題を明らかにするものです。その結果を常総市地域防災計画等に反映し、今後の大規模災害における被害等の軽減を図ります。

【救助・生活再建支援、復旧対策】

復興に取り組んでいくためには、まずは被災した市民の皆さまへの生活再建支援が必要であり、そのための国の制度あるいは県と市の独自制度を最大限活用して、支援を行ってまいります。

また、元に戻すという意味での原形復旧、元の機能を取り戻すという意味での改良復旧の2つは迅速に実施する必要があります。このため今年度と来年度の予算を確保し、早急に取り組んでいます。

【復興対策（常総市復興計画策定委員会）】

復興対策は、復旧対策や生活再建支援の上に、水害前と比較して、より魅力的で暮らしやすい常総市をいかにして実現していくかが重要です。その目的の実現のために、より実効性のある事業を検討していきます。

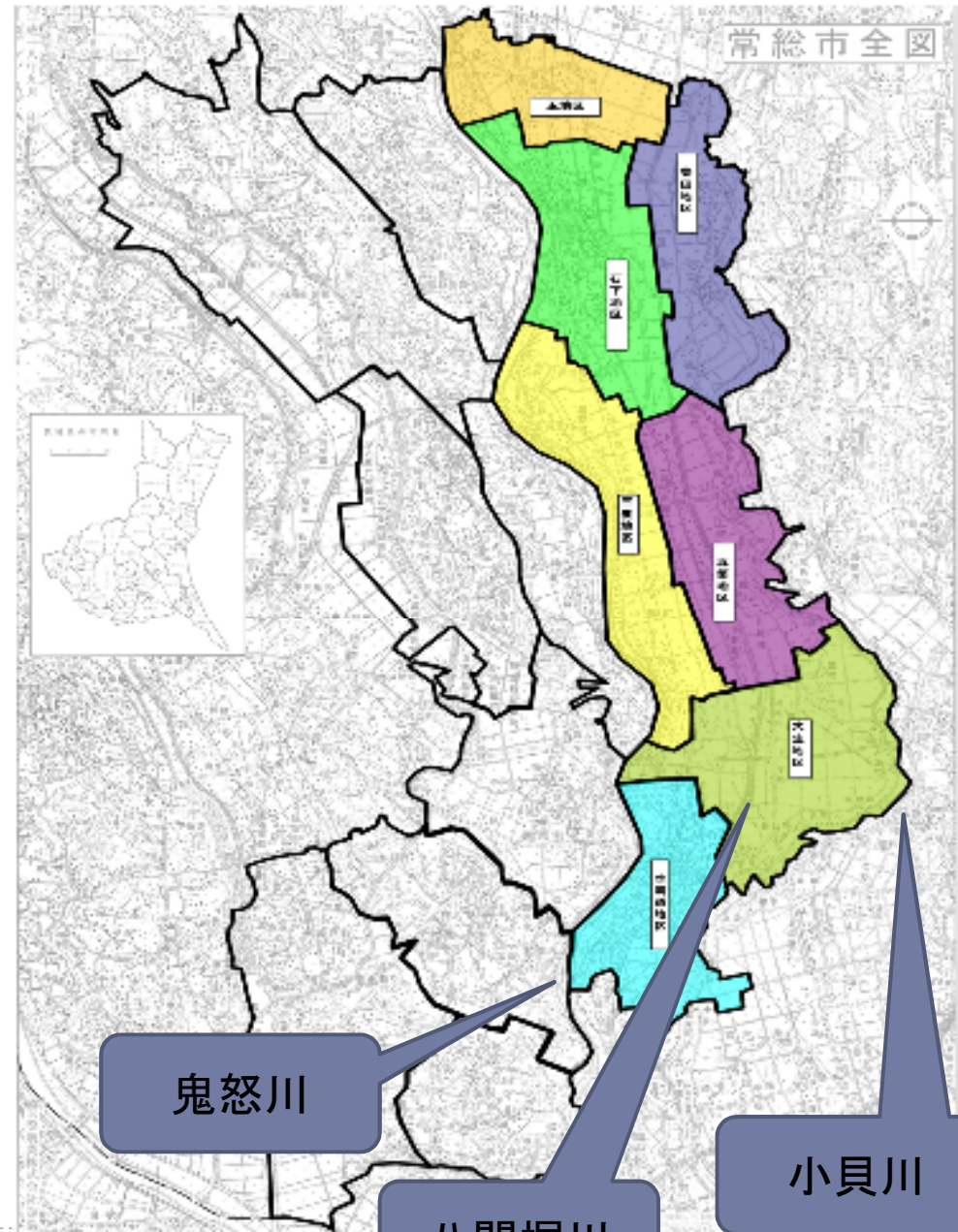
復興ビジョン懇話会では、そのための基本的な考え方を市へ提言し、復興計画策定委員会ではそのビジョンをもとに、市民の皆様のご意見を参考にしながら、より具体的な復興計画を策定していきます。

これらの検証、復旧・生活再建支援、復興対策は、独立した全く別個のものではなく、互いに影響し合い、密接に関連する部分があり、これらを同時進行で進めてまいります。

被災地域

- ◆水海道地区(水海道高野町, 水海道天満町, 水海道亀岡町, 水海道本町, 水海道元町, 水海道栄町, 水海道宝町, 水海道諏訪町, 水海道橋本町, 水海道森下町, 水海道湊頭町, 水海道山田町, 水海道川又町)
- ◆三妻地区(三坂町, 中妻町)
- ◆五箇地区(沖新田町, 三坂新田町, 福二町, 上蛇町, 川崎町)
- ◆大生地区(小山戸町, 相野谷町, 中山町, 平町, 十花町, 東町, 大崎町, 箕輪町, 兵町, 長助町, 新井木町)
- ◆石下地区(本石下, 新石下, 大房, 東野原, 山口, 平内, 収納谷)
- ◆豊田地区(館方, 豊田, 本豊田, 曲田)
- ◆玉地区(原宿, 小保川, 若宮戸)
- ◇岡田地区(杉山, 向石下)

※色を塗ってある部分は鬼怒川以東地域

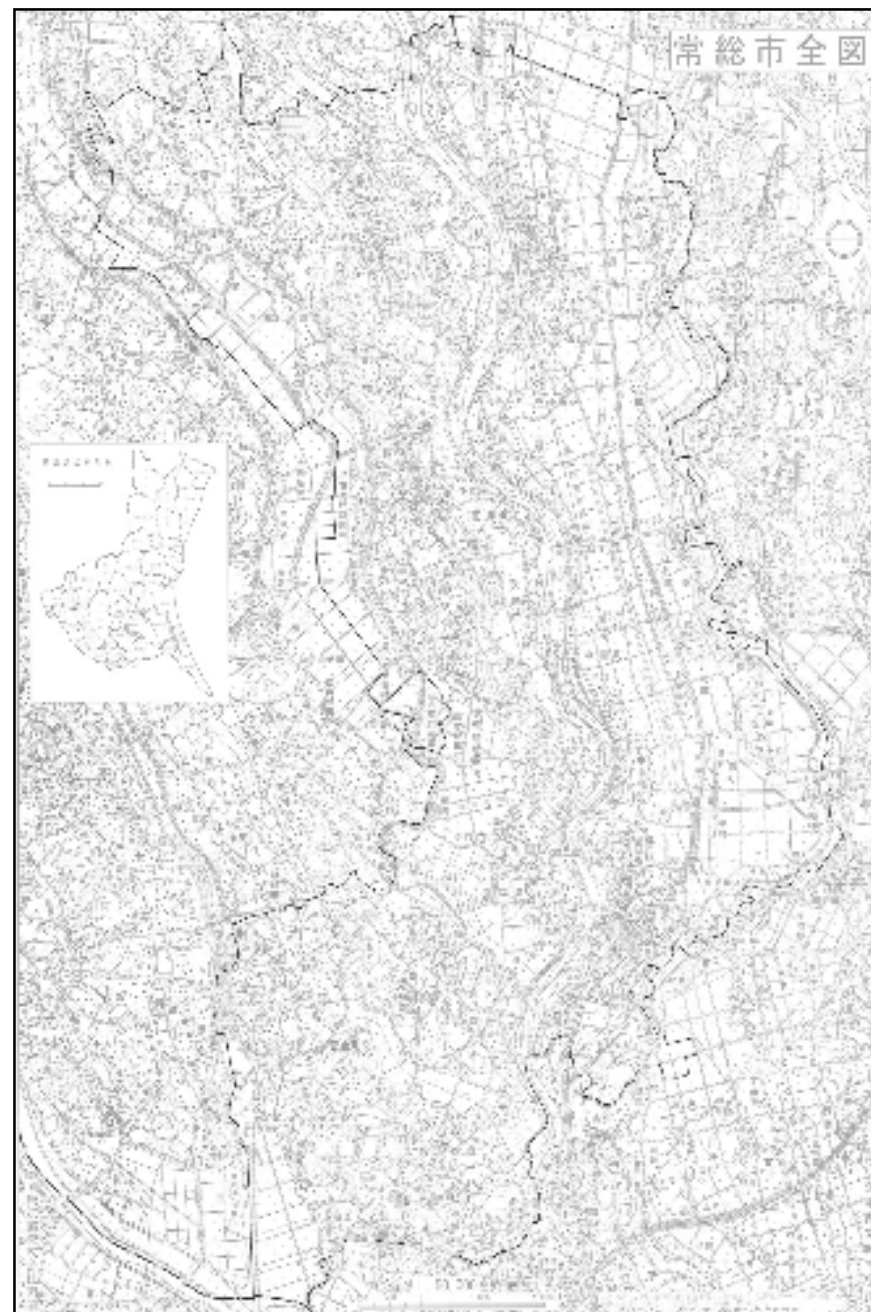


復興計画の対象地域

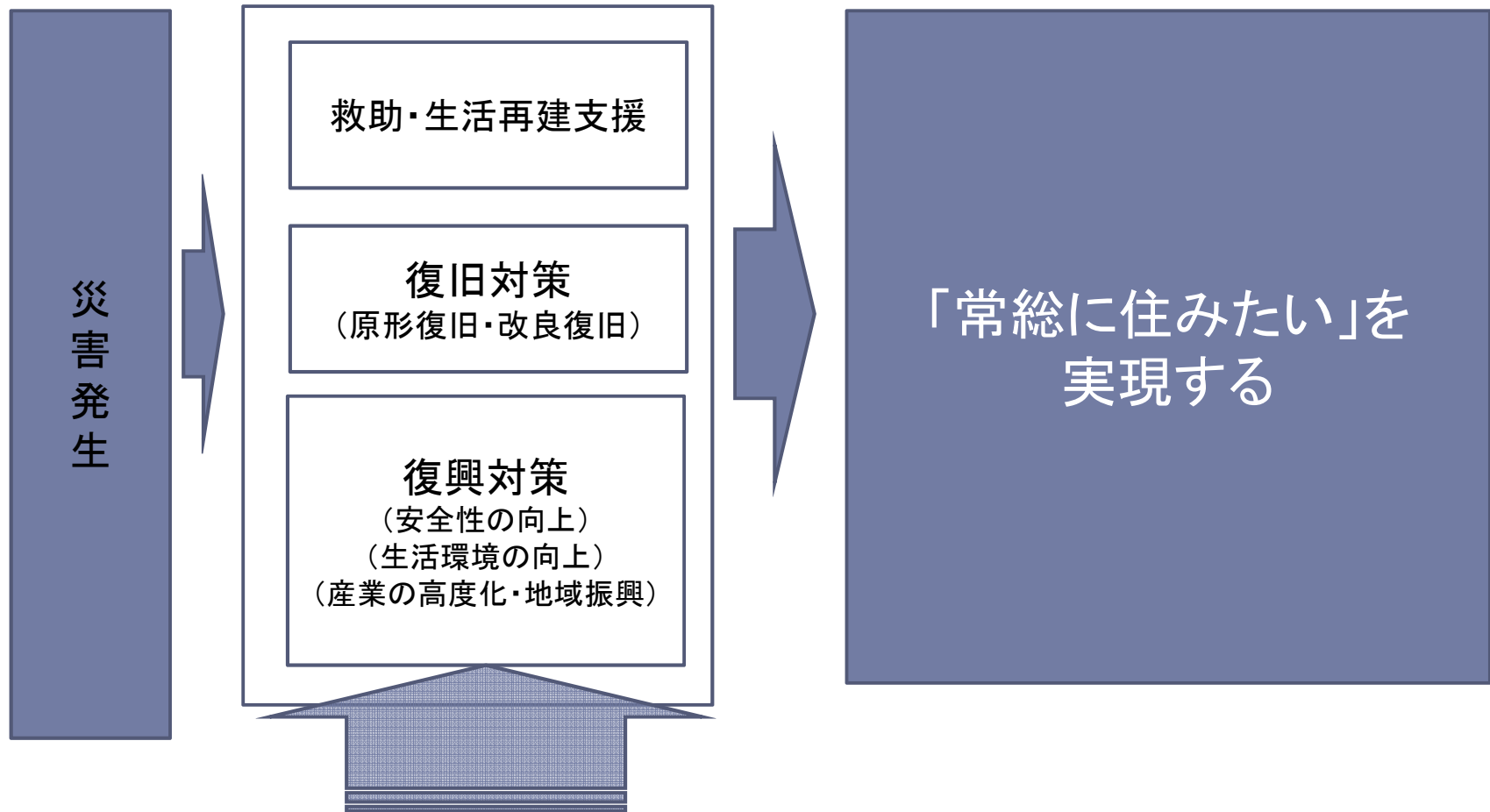
この度の災害では、鬼怒川以東のほぼ全域及び以西の一部が被災しました。

この地域を今後も安心して住み続けられる災害に強い安全なまちに甦らせるとともに、市全体がいままで以上に豊かな生活が営めるまちとして飛躍するためには、全市域として復興に取り組む必要があります。

そのようなことから、復興計画の対象地域は常総市全域とします。



救助・生活再建支援・復旧対策・復興対策の共通目的



- 市民の多様性を活かした互助と協働。
- 自治組織, ボランティア, NPO, 企業, 大学などの英知を活かす。
- 若い声を活かす。
- 無償の貢献に感謝し, 精神を継承する。

復興計画の期間

復興計画の期間を5年とし、復旧・生活再建支援・復興を同時進行で進めてまいります。
また、復興計画の内容を、まち・ひと・しごと創生総合戦略や次期の常総市総合計画へ反映させていただきます。

区分	年度別	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
常総市の復興		集中復興期間										
				継続復興期間								
復興計画期間		復興計画										
水害対策検証委員会		※地域防災計画の見直し・防災マニュアルの作成 ロードマップは水害対策検証委員会の中で議論										
まち・ひと・しごと創生総合戦略期間			まち・ひと・しごと創生総合戦略									
常総市総合計画期間		常総市総合計画			次期常総市総合計画							
		後期基本計画										

復興ビジョンの構成

復興ビジョンでは、まず、復興に向けた基本的な考え方として『川と向き合い、川とともに育ち、「住みたい」を大切にする常総』の「基本理念」を掲げます。

さらに、復興計画の終期となる5年後を見据え、私たち市民が達成していきたい4つの姿『**平成32年度時点で目指す姿**』を掲げ、それぞれの姿を実現するための基本姿勢(考え方)を『**柱**』として据えます。

そして、その『柱』を中心に、重点的に実施していく施策を示します。

復興の基本的な考え方

平成27年9月関東・東北豪雨では、本市の鬼怒川以東のほぼ全域及び以西の一部が被災しました。特に鬼怒川以東の地域は、生活基盤の整備が進んだ市街地を有する一方で、農業基盤が整備された優良農地と古くからの農村集落が広がる地域でもあります。

この地域を、今後も安心して住み続けられる災害に強い安全なまちに甦らせるとともに、市全体がこれまで以上に豊かで活気のある生活を営めるまちとなるよう、復興に取り組んでまいります。

市の復興対策の状況は、今後もホームページや広報紙などで積極的に情報発信をしてまいります。

【復興の基本理念】

川と向き合い、川とともに育ち、
「住みたい」を大切にする常総

平成32年度時点で目指す姿

▶ 復興の基本理念

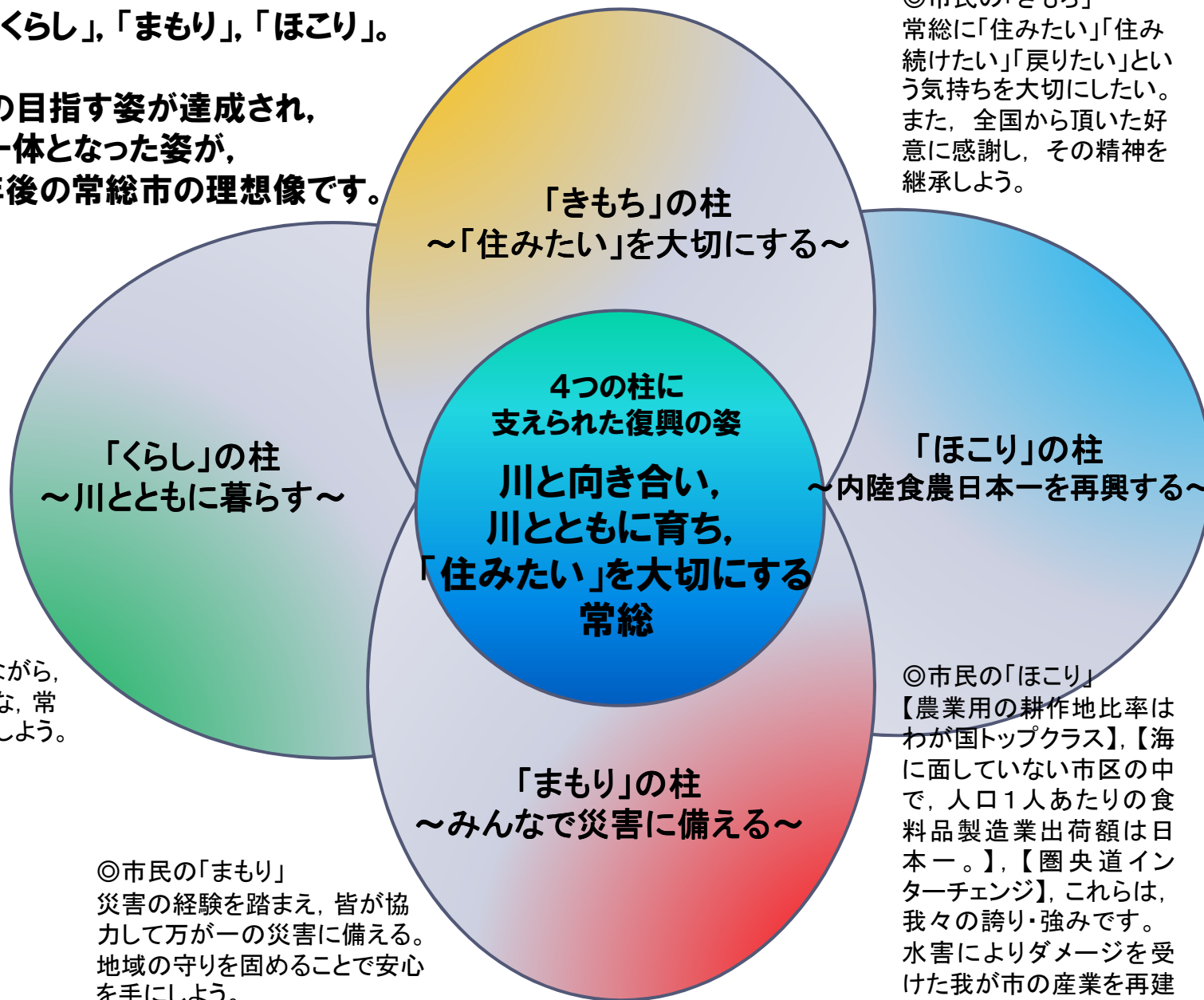
- ▶ 川と向き合い、川とともに育ち、「住みたい」を大切にする常総

⇒常総市が平成32年度終了時点で目指す姿

- ▶ **市民の「きもち」**:市民がみな、常総のまちを愛し、人を愛し、明るい未来をイメージしている。
- ▶ **市民の「くらし」**:市民がみな、「川との共生」という原点に回帰し、常総だからこその日々の暮らしを堪能している。
- ▶ **市民の「まもり」**:市民がみな、まさかに備え、いざという時に行動できる、常総ならではの「守り」の力を手にしている。
- ▶ **市民の「ほこり」**:市民がみな、常総の「強み」を理解し、力をあわせてさらなる発展を目指している。

市民の「きもち」、「くらし」、「まもり」、「ほこり」。

これら4つの柱の目指す姿が達成され、
融合して一体となった姿が、
私たちが目指す5年後の常総市の理想像です。



◎市民の「きもち」
常総に「住みたい」「住み続けたい」「戻りたい」という気持ちを大切にしたい。また、全国から頂いた好意に感謝し、その精神を継承しよう。

◎市民の「くらし」
水辺の安心と魅力を高めながら、川に学び川を楽しめるような、常総ならではの暮らしを実現しよう。

◎市民の「まもり」
災害の経験を踏まえ、皆が協力して万が一の災害に備える。地域の守りを固めることで安心を手にしよう。

◎市民の「ほこり」
【農業用の耕作地比率はわが国トップクラス】、【海に面していない市区の中で、人口1人あたりの食料品製造業出荷額は日本一。】、【圏央道インターチェンジ】、これらは、我々の誇り・強みです。水害によりダメージを受けた我が市の産業を再建再興し、市民の誇りを取り戻そう。

「きもち」の柱 ～「住みたい」を大切にする～

▶ 重点施策

1. 住み続けたい, に応える
 - ▶ 復旧・生活再建・住まいの再建の支援
2. 戻りたい, を実現する
 - ▶ 復旧・生活再建・住まいの再建の支援
3. とともに生きる
 - ▶ 市民の多様性を活かした互助と協働
4. 力を合わせる
 - ▶ 自治組織, ボランティア, NPO, 企業, 大学などの英知を活かす
5. みらいにつなげる
 - ▶ 無償の貢献に感謝し, 精神を継承する
 - ▶ 若い声を活かした常総づくり

「くらし」の柱 ～川とともに暮らす～

▶ 重点施策

1. 水辺の安心と魅力を高める
 - ▶ 環境・景観や用水・排水系統の整備
2. 被災者の心のケアをする
 - ▶ 大学や専門機関との連携
3. まちを学び, 川に学ぶ
 - ▶ 常総の歴史や河川・水資源の教育
4. 川を楽しみ, 健幸になる
 - ▶ スポーツ・コンテンツ(水辺ウォーキングやカヌーなどのアクティビティ)
 - ▶ 大学等との連携
5. 水害経験を資源に転じる
 - ▶ 治水先進地のブランド化

「まもり」の柱 ～みんなで災害に備える～

▶ 重点施策

1. 丈夫なふるさとの基盤づくり
 - ▶ ハード対策(施設整備)の推進
2. 安全でスマートな空間づくり
 - ▶ 土地利用の効率・適正化
3. 日頃から減災のための人づくり
 - ▶ ソフト防災の定着・充実(防災教育やリスク理解)
4. 地域で助け合うコミュニティづくり
 - ▶ コミュニティの醸成と共助
5. 市を越え支え合う連携づくり
 - ▶ 広域・民間連携による災害対応
 - ▶ 水害サミットへの加入と連携

「ほこり」の柱 ～内陸食農日本一を再興する～

▶ 重点施策

1. 農業を再建し, 振興する
 - ▶ 激甚災害(本激)指定による特例措置を活かした復旧と強化
2. 商工業を再建し, 振興する
 - ▶ 激甚災害(局激)指定による特例措置を活かした復旧と強化
3. 常総インターチェンジ周辺の食農・防災拠点づくり
 - ▶ 平常時は活性化拠点, 緊急時は避難拠点
4. 農商工連携を推進する
 - ▶ ベンチャー支援と人材育成
5. 食農の世界展開を支援する
 - ▶ 成田空港(約1時間)から世界へ